

[別紙 2]

## 審査の結果の要旨

氏名 上野里絵

本研究は、精神科病院またはクリニックに通院している精神疾患（統合失調症あるいはまた気分障害）を有し、かつ子育てをしている比較的軽症な女性（母親）の実態、母親役割の認識の特徴、および母親役割の積極的・肯定的認識（MP）に影響を与える心理社会的要因の検討を行った横断研究である。無記名自記式質問紙にて、人口統計学的変数、精神医学的変数、既存の尺度への回答を得た。用いた尺度は Link スティグマ尺度日本語版、The Social Support Questionnaire、地域生活に対する自己効力感尺度、Family Emotional Involvement and Criticism Scale、育児ストレスショートフォーム、母親役割受容尺度であった。

本研究では、東京都内 6 カ所の精神科医療施設に通院中の精神疾患を有する母親 74 名を分析の対象とし、人口統計学的変数、精神医学的変数、および心理社会的変数を記述統計にて示した。次に、母親役割の認識の特徴については、本研究結果と先行研究との比較をするため、効果量 (effect size) を算出して検討した。MP に影響を与える要因には、MP を目的変数、MP と相関が認められた変数を説明変数とした階層的重回帰分析を行い検討した。

主要な結果は下記の通りである。

1. 実態として、まず婚姻状態については、本研究の結婚している者は先行研究より多かった。一方、本研究の離婚率は、本邦の一般人口における女性の離婚率より高かったことより、精神疾患を有する人は離婚のリスクが高いという点は、先行研究と共通していた。次に、経済状態を尋ねた生活意識の結果は、本邦の全世帯を対象とした全国調査とほぼ同程度であり、経済的に困窮しているとする先行研究と異なり、本研究の母親の経済状態は比較的よいことが示された。
2. 母親役割の認識の特徴については、母親役割受容尺度の下位尺度である MP 得点は、一般の母親を対象とした研究結果と差異がなかったが、母親役割の消極的・否定的認識 (MN) の得点は、本研究の母親の方が高い傾向であった。項目間の検討では、

MP項目では、「母親であることが好きである」および「母親になったことで人間的に成長できた」の得点が共に他の4項目より高く、この結果は、一般の母親および、精神疾患を有する母親の先行研究と類似していた。MN項目では、「自分は母親として不適格なのではないだろうか」の得点が他の5項目より高く、また一般の母親を対象とした研究との比較でも差異がみられたことより、この結果は、精神疾患を有する母親の特徴として示唆された。

3. MPに影響を与える要因を検討するため、まずMPと各変数間の相関分析を行った結果、生活意識、スティグマ、ソーシャルサポートの満足度、セルフケア、子どものEE（批判と情緒的巻き込まれ過ぎ）、および子育てのストレスがそれぞれMPと統計的に有意に相関があった（両側検定）。
4. 次に、MPを目的変数として、MPと相関があった変数を説明変数とした階層的重回帰分析を行った。最終的な重回帰モデルにて、統計的に有意にMPを説明していた変数は、生活意識の苦しい、セルフケア、子どもの情緒的巻き込まれ過ぎ、子育てのストレスであった（両側検定）。重回帰モデルは、モデルの適合度も高く、精神疾患を有する母親の母親役割の積極的・肯定的認識を説明するモデルとして、一定の有用性があると考えられた。
5. 階層的重回帰分析の結果、セルフケアの単寄与率は高く、セルフケアができていると感じているほど、母親役割をより積極的・肯定的に認識することが示されたことより、精神疾患を有する母親のセルフケアは、子育てとの関連の中でアセスメントすることが、より効果的なセルフケアへの支援につながることを示唆された。

以上、本論文は、精神疾患を有する母親の母親役割の積極的・肯定的認識に影響を与える要因を心理社会的側面から検討し、多面的な視点から考察した点で学術的な意義が高い。また、精神科病院又はクリニックといった医療の場で、比較的軽症な精神疾患を有する母親、あるいは過去に重症な時期を経た者では、病状の安定期にある母親に対して専門家が用いることができる、心理社会的側面を考慮した支援を示唆した点では、本論文は実践的な有用性をも兼ね備えており、学位の授与に値するものと考えられる。